

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300321		
法人名	社会福祉法人 善友会		
事業所名	グループホームさざんか		
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦654番地		
自己評価作成日	令和7年7月21日	外部評価結果確定日	令和8年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である、医療法人七久会山崎病院がとなりにあり、緊急時に迅速な対応や日常の健康管理が適切に提供できる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jlgvsvocd=4271300321-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年8月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では入居している利用者の様子を写真や記事にして丁寧に家族に伝えるようにしている。管理者が中心になって作成しているが、利用者が普段みせない表情や活動内容を伝えることで家族の安心感や事業所への信頼に繋がる1つのツールとなっている。特に新型コロナウイルス感染拡大以降、事業所での面会はできるが時間や場所の制限があるため、家族目線で考えると「さざんか便り」はありがたい存在である。また職員間の風通しがよく、職員は意見を出しやすい環境下で仕事ができおり、職員同士の情報共有も図れている。利用者への支援方法が統一されているということは、質の高いサービスが提供されている1つの証でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	体操や行事ごとの夏祭り、クリスマス会などの計画を立て実践につなげている。	職員は理念「人が真んなか」と運営方針「みんなで暮らしを楽しむ」を軸にして日々の支援を行っている。理念の共有について既存の職員は定期的に行っている職員会議の一コマで確認をしている。一方、新しく入職する職員への説明は実施していないとのことであった。	理念や運営方針の共有に関して、職業倫理、身体拘束廃止、個人情報保護(プライバシー保護)、感染症対策も含めて、新しく入職する職員に説明を行い、事業所の考え方や正しい知識を早い段階で理解してもらうことが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはできていない。	新型コロナウイルス感染対策の一環として、地域を含めたところで人的交流は積極的に行っていない。以前は外部からの慰問も受け付けていたがこの点もまだ用心している状況であった。今後も法人全体の方針に沿って行動していくとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて各施設の職員や自治会長、民生委員、介護保険課担当者との意見交換を行い認知症の人への理解や支援方法を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	少しずつ活かしている。	現在、対面式の会議を定期的に行っている。会議の際は事業所で行ったイベント等の写真を回覧して普段の利用者の様子を伝えるようにしている。参加者のうち就労や移動手段等の課題で家族の参加が安定しないとのことであった。参加がなくても議事録を全家族に毎回送信して報告としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新の手続きや運営推進会議に出席して頂くことにより顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力関係を築くようにしている。	事業所の所在する地区の支所の方が固定で運営推進会議に参加しているので顔の見える関係は構築されている様子であった。このところ特に相談をしたり受けたりすることはないが、内容によっては適宜行うとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度、職員会議にて話し合い共有し正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に該当するような行為は行っていないとのことであった。センサーマットも使用しておらず、布団の端の部分やトイレのドアに鈴を付けて、音が鳴ったら近位見守りや移動の一部介助を行っている。事業所にて正しい知識を得るために定期的な研修の実施や動画視聴を行っている。法人として年に1回ストレスチェックを行い、職員の健康管理も定期的実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度職員会議にて話し合い、共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の職員会議にて話し合い、共有し支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い疑問点を尋ね理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは契約時、面会時等に利用者様からは日常的に意見を聞いている。	利用者や家族の意見を入手する手立てとしては直接又は電話等で相談があったり、面会時に伺ったりするケースが大半の様子であった。事業所としては普段の様子を伝えるため請求書と一緒に「さざんか便り」を同封して利用者毎にコメントを記したり、写真を添付して状況の共有に努めている。管理者はこのような日々の活動を家族に伝えることで、家族から意見を引き出す1つの手段としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、日常的にも意見、提案を聞き反映させている。	職員が意見を発する場面として、通常の業務中や職員会議の際に意見交換することが大半とのことであった。また、今のところ管理者と職員が個別面談する機会はないとのことであった。管理者はこのような機会がない分、日常業務の際に気がかけて職員と会話を持つように心がけているとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日出勤の際は超過勤務の書類を提出してもらい、給与にプラスしてもらえるようにしている。また希望公休2回、有給休暇も使用しやすい環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しずつ進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ取り組む機会を増やしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入所時に要望等確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様に要望等確認し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた支援を見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において利用者様本人ができることは無理のない範囲で行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族様にご本人様の普段の様子などを伝えたり、希望があれば家族に電話を繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある理容室から散髪にきていただいたり、利用者様へ届け物があった際にはお礼の電話を繋げている。	新型コロナウイルス感染拡大時期は外部との接触に制限があったが、現在、外出や外食(家族同伴)ができるようになり、少しずつ関係継続の支援ができるようになってきた。また事業所の関連する医療機関へ通院した際、知り合いの方と会ったりしてしばらく会話をすることがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、孤立せずに支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の相談や支援はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、面会時に自宅での過ごし方や趣味・嗜好を確認し把握に努めている。	アセスメントは管理者自らが趣き、事業所での生活が少しでも過ごしやすいものとなるよう、写真や家具を持ち込んでもらうとともに、家具の配置等にも気を配っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人様双方に契約時や面会時などに聞き取りをし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員間での申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心にご本人様からの意見、ご本人様の意見を聞き介護計画を作成している。	職員一人ひとりが利用者との時間を大事にしており、介護計画の実践や評価が日常的にできている。また、本人の趣味活動や習慣をリハビリのプログラムに盛込み、残存機能の維持に務めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に変化・気づきなどを記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションなどで季節の行事などを計画し、暮らしを楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する山崎病院をかかりつけ医にいただいております。医師との良好な関係を維持し、適切で迅速な医療を受けられるよう支援している。	医療機関が隣接しており、緊急時は夜間であっても看護師や医師が駆けつけてくれる体制となっている。また、同医療機関から週1回の医師の往診があつているため、利用者及び職員からの安心感も高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	山崎病院の看護師に利用者様の気づきなどあれば連絡・報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	山崎病院に入院時の際は、ご家族様に病状説明をしていただき、その後は情報交換できている。他の医療機関の際は連携室との情報交換ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のみに説明・話し合いをしている。	重度化の傾向が高まると、特別養護老人ホームや入院の案内を早めに実施している。早い段階から家族に相談しており、転居先、入院先の紹介及び調整も施設が行っていることから、これまで大きなトラブルになったことはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地元の消防署の協力のもと、定期的避難訓練の実施ができています。	年2回の消防訓練を実施しており、地元の消防署との連携もとれている。キッチンにはIHを導入しており、事業所内で火を扱う場面がなく、失火のリスクも減らしている。事業所内には消火器の他AEDも設置されている。	非常災害時の備蓄の品目や数量について、事業所内に目安量(利用者及び職員の数×3日分)数量が確認できなかった。法人が一元管理しているのか、事業所毎に管理しているのか上長に確認の上、必要に応じた対応を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時には必ず声かけを行い、更衣時には居室の窓のカーテン・ドアを閉め対応し、丁寧な言葉かけをしている。	共用トイレの扉を衝立やカーテンで囲んでおり、車いすの方がトイレを利用する際にも互いの目隠しとなるよう配慮がなされている。入浴は1対1で実施しており午前と午後の入浴の前には湯船の清掃を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者様自身に決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、一人ひとりのペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様自身にて、くしで髪をとおしてもらったり、好きな洋服をきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭きなどのお手伝いをしていただいている。	食材の皮むきや下ごしらえと食後の食器の拭きあげを利用者とともにしており、残存機能の維持と食事への意欲に務めている。食形態は4形態に対応し、補食やとろみ等の個別の対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事形態で誤嚥がないよう配慮し、毎食の摂取量を記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアをし、義歯洗浄もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの言葉かけ、時間でのトイレ誘導を行い、失敗やパッドの使用量を減らすよう支援している。	失禁リスクのある利用者でもおむつ交換のみでの対応とせず、夜間はベッドサイドにポータブルトイレを設置する等、時間帯によって環境設定や使用物品を帰ることで排泄動作の自立度を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後の体操や個々に合った運動や往診の際医師への報告・相談を行い、個々に応じた服薬なども使用し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回と決まっているが、午前・午後・順番は利用者様の希望にそった支援ができています。	入浴剤を事業所で準備し、湯船の清掃を午前と午後で行っている。入浴は1対1で行っているため特別なコミュニケーションの場にもなっていることもあり、利用者からの満足度は高い。入浴の煩わしさから拒否の傾向が強い利用者もいるが、職員の声掛けによってスムーズに入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・気分に応じ、室温・居室の照明などに配慮し、適切に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用する目的などは介護記録へ記入し、副作用などは、医師の説明を聞き処方箋などをみて、職員に共有し理解してもらうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や食器拭き、洗濯物を畳んでいただき、利用者様の力を活かした支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しずつドライブをしたり、施設周辺を散歩したり支援している。	週1回は屋外での散歩を実施している。新型コロナウイルス感染症対策として、これまで自粛していたドライブレクリエーションも今年から徐々に増やしており、今年の春は近隣へ花見にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブル防止のため、利用者様が必要ものはご家族様へ依頼するか、ホームで立替をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話・手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に合った飾りつけをし、台所・食堂を毎食後掃除し快適に過ごせるよう工夫している。	利用者と職員の共同で季節の展示物の作成を行っている。1か月半毎には展示物も置き換わっており、季節感と衛生面での確保がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルの席の隣同士や前後で話ができるよう、一人ひとりに合った居場所づくりの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火を扱うもの以外で家で使用していたものや好きなものがあれば自由に持ってきていただき、利用者様が心地よく過ごしていただいている。	季節ごとの行事の作品や写真も居室に飾り、衣替えも職員が介入することで、居室環境の改善も進められている。また、夜間のみ居室内へのポータブルトイレの設置を行う等、本人の能力に応じた時間帯による環境設定の変更も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクが高くない限り、できるだけ好きなことやできることをしていただいている。		